



TOKYO Digital Wildlife Inventory

2023 活動レポート

東京いきもの調査団 2023

いきもの
見つけて
写真を投稿！



1,400 万人が暮らす日本最大のメトロポリスでありながら、奥多摩の山地から丘陵地の里山、市街地の緑地や水辺、島しょ部の固有の生態系まで、多様で豊かな自然がみられる東京都。

都内の野生動植物の生息状況を明らかにするために結成された「東京いきもの調査団」では、調査団員である都民のみなさんと一緒に、いきものコレクションアプリ「Biome (バイオーム)」を使って、2023 年度は合計 39 のクエストを行い、多種多様な野生のいきもの探しを行いました。

調査の結果

調査期間

夏編 2023 年 8 月 3 日～ 9 月 30 日
秋編 2023 年 10 月 13 日～ 12 月 12 日

参加者数

9,858 人

全投稿数

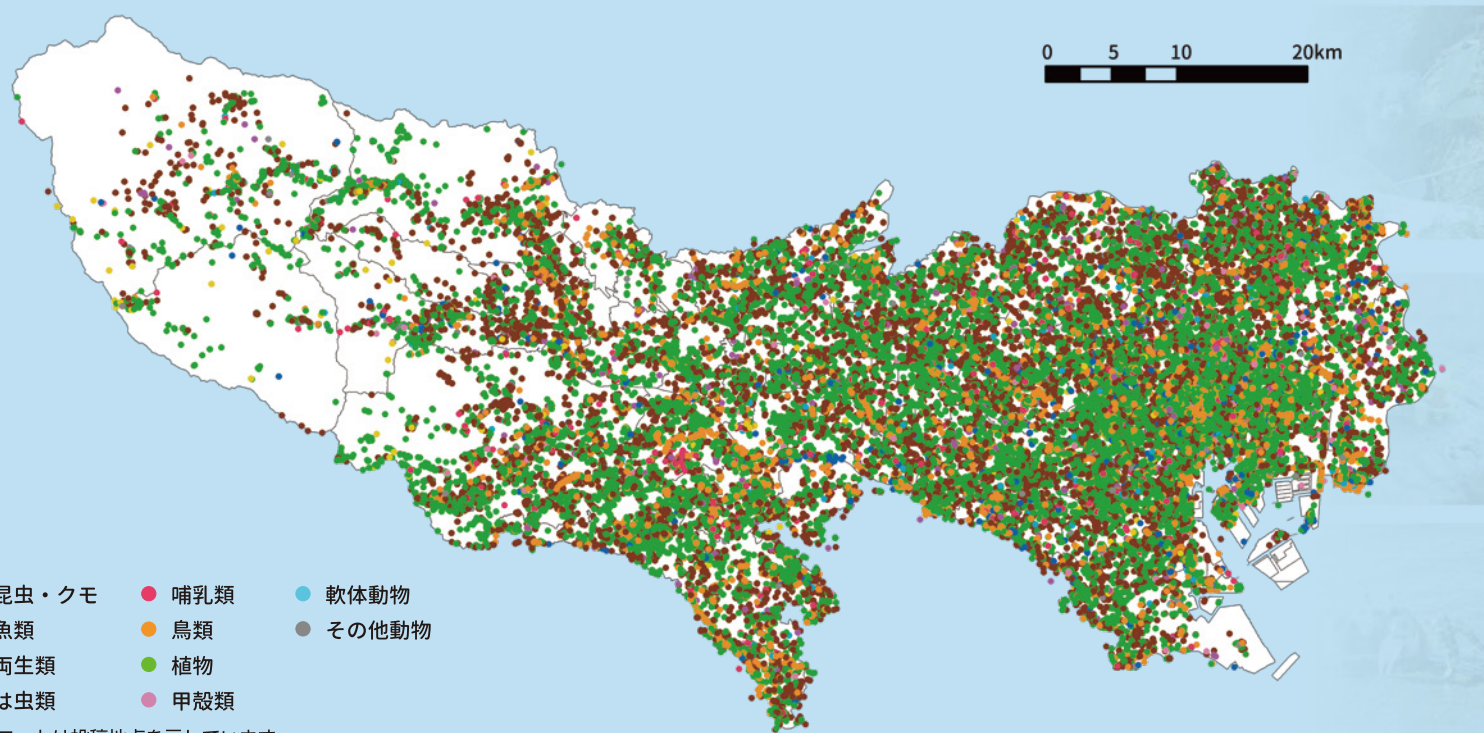
124,556 件

区部	72,737	伊豆諸島	1,891 [※]
多摩部	49,115	小笠原諸島	813 [※]

画像は実施したクエストの一部です

※クエスト：Biome アプリで期間・場所を指定し、いきもの調査をおこなう機能

※海上での投稿含む



区部・多摩部の いきものの調査

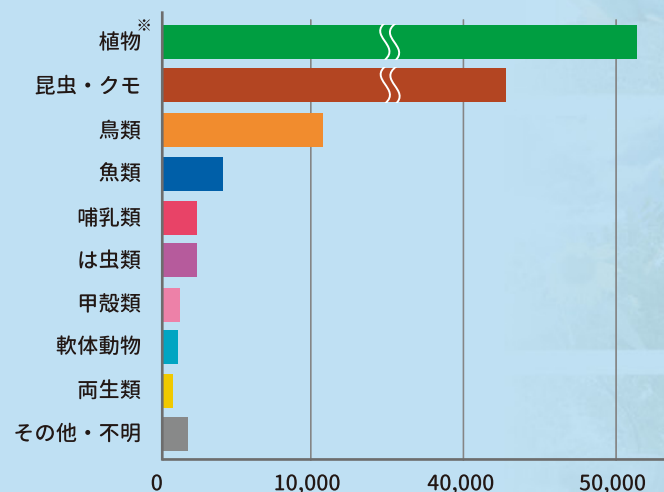
投稿数が多かったいきもの

ナミアゲハは、花壇などでよく見かけるアゲハチョウです。キマダラカメムシは街路樹の幹などでよく見られますが、もともとは南方系由来の外来種です。

そのほか、アブラゼミやカルガモ、ヤマトシジミなど、公園や庭先、道ばたでもみられる身近ないきものが多く投稿されました。郊外はもちろん、都心部も含めて東京には多くのいきものがすんでいることが明らかになりました。



分類群ごとの投稿数



※シダ植物、コケ植物などを含む

今回の調査によって、区部をはじめとする都心部の身近ないきもの情報もたくさん集まりました。

また、絶滅危惧種や外来種など、生態系を知るうえで貴重な情報も多く集まり、東京都の自然の全容解明に、一歩近づくことができました。

0 10 20 40km

- 昆虫・クモ
- 魚類
- 両生類
- は虫類
- 哺乳類
- 鳥類
- 植物
- 甲殻類
- 軟体動物
- その他動物



オーストンヤマガラ



アズマヒキガエル

伊豆諸島 は「野鳥の楽園」としても知られており、各島に固有の野鳥が多く生息しています。例えば、今回投稿があったオーストンヤマガラは伊豆諸島南部にのみ生息するヤマガラの亜種です。一方、人により島外から持ち込まれ繁殖している外来種も問題視されています。今回の調査では島内でアズマヒキガエルが投稿されましたが、これは島外から移入され繁殖したものです。

投稿が多かったいきもの

伊豆諸島で最も投稿が多かったのは、伊豆諸島に古くから生育しているセリ科植物であるアシタバでした。島の特産野菜であり、ハチジョウソウとも呼ばれます。ほかにも熱帯から亜熱帯にかけてよく見られるブッソウゲや、本土部でも数を増やしている外来種のシチヘンゲが多く投稿されました。



アシタバ



ブッソウゲ

シチヘンゲ

伊豆諸島のいきもの調査

小笠原諸島のいきもの調査

小笠原諸島 は「東洋のガラパゴス」と呼ばれるほど固有種が多く生息しています。今回の調査でも、島固有種であるオガサワラオカモノアラガイが投稿されました。一方、外来種問題も大変深刻です。今回投稿された外来種ニューギニアヤリガタリクウズムシは、カタツムリ類を捕食するため、小笠原諸島に固有の陸産貝類に大きな影響を与えています。



タコノキ



アカガシラカラスバト

グリーンアノール

投稿が多かったいきもの

小笠原諸島で最も投稿が多かったのは、島固有の植物であるタコノキでした。2位のアカガシラカラスバトも小笠原にしか分布していない日本固有亜種であり、かつては個体数が激減しましたが、現在では保護対策により数が増えてきています。3位のグリーンアノールは、在来昆虫を捕食することが強く心配されている、アメリカ原産の外来種です。



オガサワラオカモノアラガイ

外来種

ニューギニアヤリガタリクウズムシ

- 昆虫・クモ
- 魚類
- 両生類
- は虫類
- 哺乳類
- 鳥類
- 植物
- 甲殻類
- 軟体動物
- その他動物

0 20 40 80km

調査でわかった！野草の分布

かつて関東平野にはたくさんの野草が生い茂っていましたが、近年は市街化の影響で姿を消しつつあります。このクвестでは、夏に花を咲かせる種類を中心に、都心部から郊外まで幅広い環境にみられる在来野草を調査しました。その結果、特徴的な分布のパターンが見られました。



©ayams

広域に分布

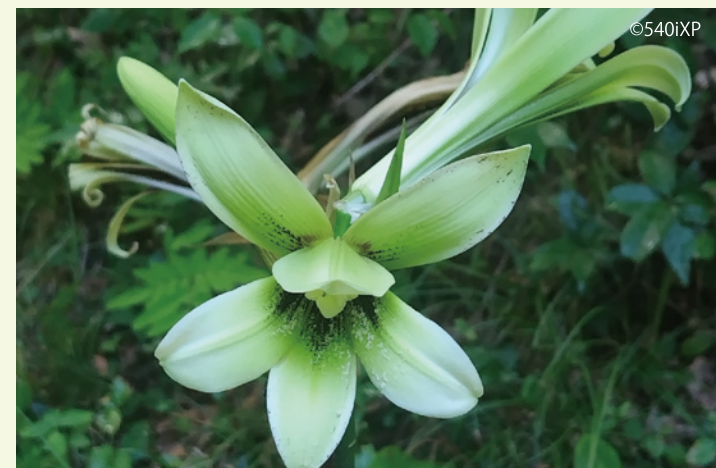
センニンソウ

Clematis terniflora

©おっちゃん

市街地から
里山に分布

ウマノスズクサ

Aristolochia debilis

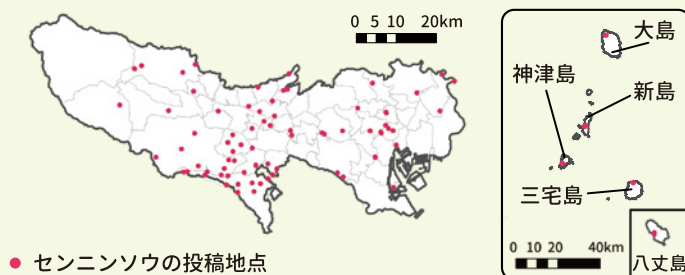
©540iXP

市街地から郊外の
低山地に分布

ウバユリ

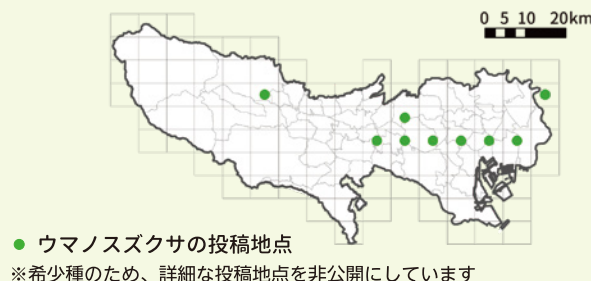
Cardiocrinum cordatum

センニンソウの分布（夏編集計）



本土の区部～多摩の低山部や、伊豆諸島の複数の島で投稿されました。白い花が特徴的なつる植物で、日当たりの良い場所を好み、在来野草の生育に適した環境が減りつつある都心部でも生育していました。

ウマノスズクサの分布（夏編集計）



区部から多摩の広い範囲で投稿されました。市街地周辺の河川堤防や都市公園などの草地在重要な生育環境となっていると考えられます。



ジャコウアゲハ

ウマノスズクサを食草とするジャコウアゲハの幼虫も近い場所で確認されました。ウマノスズクサがなくなってしまうと、ジャコウアゲハもいなくなってしまう。

ウバユリの分布（夏編集計）



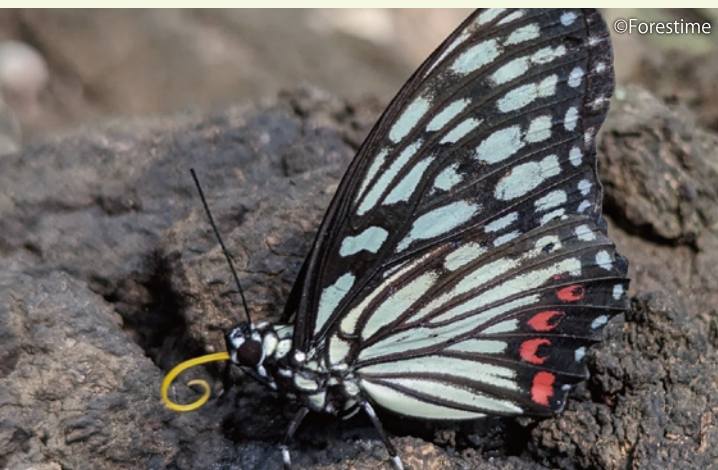
台地から丘陵地にかけての里山環境において投稿され、市街地では投稿されませんでした。主に人の生活に近い里山の樹林に生育しています。適度な管理によって維持されている里山は、多様な生きものが共生できる豊かな環境であり、このような里山を守っていくことも重要です。





近ごろ話題の外来種たち

近年外来種として注目されている動植物を、夏・秋編合わせて12個のクエストにおいて広く調査しました。ここで解説している外来種は、いずれも分布の拡大や個体数の増加が懸念されています。こうした外来種については注意深い観察と対策に向けた検討を行っていく必要があります。



©Forestime

特定外来生物

アカボシゴマダラ

Hestina assimilis subsp. assimilis

©appios

特定外来生物

ガビチョウ

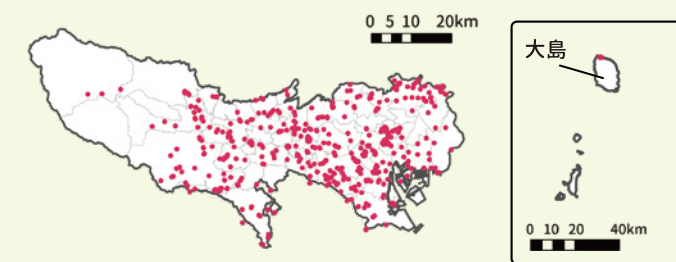
Garrulax canorus

©稲

ワカケホンセイインコ

Psittacula krameri

アカボシゴマダラの分布（夏・秋編集計）



● アカボシゴマダラの投稿地点

ベトナム、中国、朝鮮半島に分布しており、日本では奄美諸島に自然分布していました。しかし近年、中国産と推定される亜種が都心にも定着しています。

今回の調査では、区部、北多摩、南多摩を中心に確認され、広い範囲に生息していることがわかりました。

本種と同じエノキ類を食樹とする在来種のゴマダラチョウなどとの競合の問題が懸念されています。今後の分布の広がりを注意深く観察していきましょう。

ガビチョウ等の分布（夏・秋編集計）



● ガビチョウ
● カオグロガビチョウ
● ソウシチョウ の投稿地点

東～東南アジア原産の鳥です。大きな鳴き声が特徴的で、よく目立ちます。主に北多摩から南多摩にかけての丘陵地で多く投稿されました。



ソウシチョウ

同様の環境を好む特定外来生物である、カオグロガビチョウやソウシチョウも、北多摩から南多摩の範囲を中心に投稿されました。これらはいずれも在来鳥類との競合などが懸念されています。

ワカケホンセイインコの分布（夏・秋編集計）



● ワカケホンセイインコの投稿地点

インド・パキスタン・スリランカ原産の中型のインコです。ペットとして導入されたものが1969年から区部で野生化したとされ、現在では関東地方を中心に定着しています。

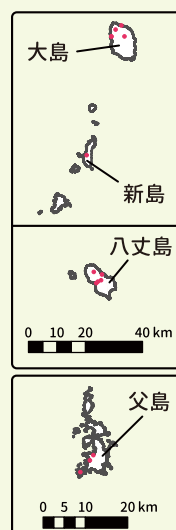
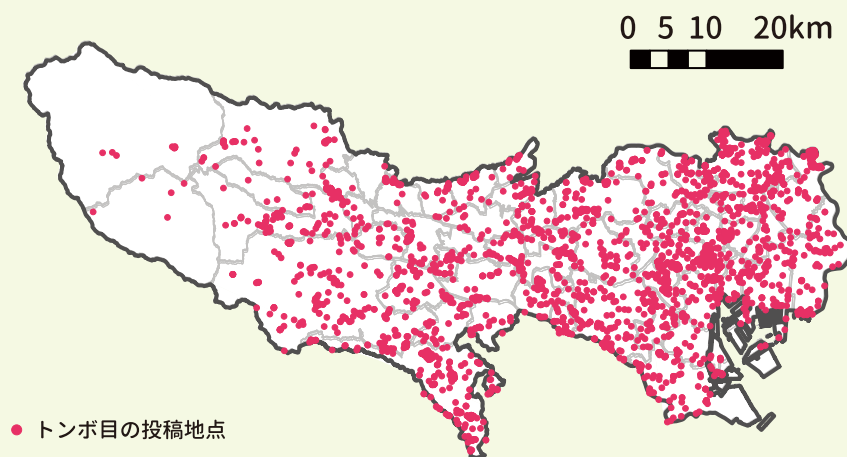
今回の調査では、主に区部の市街地で多く投稿されました。しかし、多摩でも数例の投稿があり、進出していることがわかります。国の生態系被害防止外来種リストに掲載されており、1人でも多くの都民のみなさんの目で、今後の分布の広がりを注意深く観察していきましょう。

トンボの楽園 TOKYO

東京都は、かつては全国で2番目に多い108種ものトンボが見られる「トンボの楽園」でした。しかし、大規模開発や社会環境の変化によって水辺の環境が失われるなどして、ベッコウトンボなど9種が都内で絶滅しており、生息地の保全が急がれます。



トンボ目の分布（夏・秋編集計）



調査の結果、3,645 件ものトンボの投稿が集まり、夏・秋編合わせて59種類ものトンボが見つかりました。

河川敷や池でよく見られるアキアカネやシオカラトンボ、水質が良好な水辺で見られるカワトンボの仲間など、多種多様なトンボが投稿されました。

トンボ調査のコツ

なるべく真横から撮影しよう！



はねの模様、胸部の模様や尾部付属器（おしりの先の部分）などがよく見えるため、種を特定（同定）しやすくなります。

東京は、市街地の緑地、森や里山、川や海など多様な自然環境に恵まれており、様々な野生のいきものが暮らしています。

東京都では、生物多様性保全のための基礎情報として、野生のいきもののリストや暮らしぶりの情報を整理した「東京いきもの台帳」の取りまとめを進めています。

この取りまとめには、専門家からの情報だけでなく、東京いきもの調査団で集められた多くのいきもの情報が、市民科学データとして重要な役割を果たしています。

ぜひ、東京いきもの調査団の活動にご参加ください！



東京いきもの調査団の
調査結果も含まれます！

市民科学データ

収集 → データ検証

都民の皆さんが
アプリ等を使って
集めた情報

専門家による
同定チェック、
データチェック

標本データ・文献データ

収集 → 情報の一元化

専門家による
信頼できる
データの収集

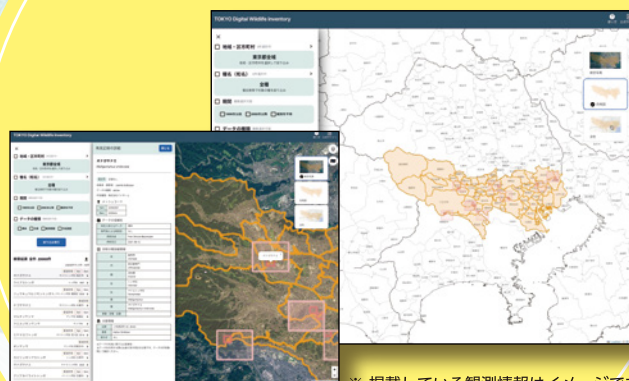
既存の生息・生育情報を
共通フォーマットで
データベース化

観察情報データ

専門家が過去に実施した調査結果
専門家による都内の網羅的調査結果

確かなデータベースとして整理

みんなでつくる！野生生物目録 「東京いきもの台帳」



※ 掲載している観測情報はイメージです

野生生物の既存情報や現状を一元的に集約し、誰でもが
活用できる生物多様性の基礎情報として蓄積していきます。



活動は
公式ウェブサイトにて
随時発信しています。

<https://ikimono.tokyo>



みんなでつくる！東京の野生生物目録

東京いきもの調査団

TOKYO Digital Wildlife Inventory

2023年活動レポート

編集

株式会社バイオーム

発行

東京都環境局自然環境部計画課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
☎ 03-5388-3548

登録番号 第(6)13号

環境資料 第36008号

令和6年5月発行

みどりと生きるまちづくり
TOkyo GREEN BLZ

※本資料に掲載されている写真はすべて調査期間中に投稿されたものです。